

令和 6 年 度 園 評 価

(園名) 大垣市立 日新幼保園

【園目標】 心がひろく　あかるく　たくましい子	【前年度の成果と課題】 ・進んで動かたくなるような体づくりができる工夫をする。 ・年間を通して小学校との連携や異年齢交流を計画的に行い、互惠性を育む。 ・遊びの時間や場所の保証や、やってみたくなる環境づくりができるように随時必要な打ち合わせを行い共通理解に務める。 ・幼少期に大切にしていきたいことを保護者と共有できるように生活や遊び、異年齢交流、保幼小連係等の内容と共に意図を明確に伝えていく。 ・全職員が安全対策や緊急時の対応についての認識を高められるよう、安全に関するマニュアルの研修を行う。
----------------------------	--

4段階評価

○保育者☆関係者

観　　点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 供 へ の 保 育 ・ 教 育	身体的 発達	十分に体を動かして遊ぶ	2.7	3.8	○週案会で、子どもの発達や興味、安全な環境等話し合い、計画を立てられたことで、体を存分に動かす活動につながった。 ○外部講師や園内研修等で発達について学び保育に取り入れることができた。無理なく継続して取り組むことで楽しめた。 ○保育者が子供たちと一緒に思いきり体を動かすことを楽しんだことが刺激となり、園児が十分に体を動かすことにつながった。 ○学年リーダーだけでなくクラス担任全員が話し合いに参加し、共通理解できる工夫を行っていきたい。 ○運動遊具の有効的な活用の仕方、運動遊びのねらいや意図について学びを深めたい。 ☆小学生も運動離れが進んでいる状況である。園では「運動は楽しい」「爽快感」などを十分に味合わせることが必要であると思う。
	社会的 発達	友達や異年齢児との触れ合いを通し、思いやりや感謝、憧れの気持ちをもつ。	3.4	3.5	○週案会で異年齢児との交流日を決めていく事で計画的に進められ、あこがれや興味関心をもつことに繋がったり、自然にやさしく接する気持ちが育めたりした。 また、少し難しいことにもチャレンジしてみようと意欲がもてた。 ○思いを受け止め、寄り添い、良さを認めていくことで、子どもたちが安心して過ごすことができ、いたわりや感謝の言葉につながってきている。 ○よりいたわる気持ちや自尊心につながるよう、様々な学年間での交流の機会をもてるように職員間の関係性も大事にしていきたい。 ☆意図的に異年齢交流の場を設定する工夫をし、異年齢児での交流や小学校との交流も盛んに行っていくとよい。
	精神的 発達	自分の好きな遊びを見つけ主体的に遊びを楽しむ。	2.9	3.6	○時期や内容など遊びの環境を見直しすることで、子どもたちが自ら遊びだし楽しむ姿や片付けをする姿につながった。 ○わくわくタイムの環境設定の見直しや遊びの種類等話し合いをしていくことで、夢中になって遊ぶ子が増えた。 ○遊びの発展に合わせた環境作りはクラスごとで差があるため、職員間で学びあえる場を作っていく。 ○保育者のねらいの明確化、子どもの育ちの読み取りや遊びが見つけられない子について思いやアプローチ法を探っていきたい。 ☆自分の好きな遊びを自分で決めるなど自己選択の確立ができるための環境づくりが大切。幼児期は「環境が人を作る」そんな時期であると思う。
る子保 支育護 援て者 家・ 庭地 に域 対の す	地域・保 護者支 援	家庭との連携を図り園児の育ちを確認しあう。	2.7	3.7	○得意なこと苦手なことを伝えていく事で、保護者から相談してくれることが多くなった。 ○先を見据えながら具体的に伝えていくことで理解しようとする思いにつながった。 ○延長利用児の保護者と話す機会がもてるように心がけていたが内容がトラブルやけがの報告の割合が多くなり、関係がうまく作れなかった保護者もいた。参観の機会も増やしたい。 ○より伝わりやすくまた負担が大きすぎない写真掲示とたよりの内容の工夫をしていきたい。 ☆園内での様子を知るのに写真はとても参考になる。今後動画を活用するなど様子が伺えるときさらに伝わると思う。
	保幼小 連携	小学校との連携を市職員や子供たち同士の交流を図る	2	3.7	○交流の様子が写真で掲示することで全保護者に伝わった。 ○低い年齢も小学校で遊んだり小学生を見る機会を多くもつことができ親しみを感じられた。 ○終礼等で実際に見学をした授業参観での気づきや交流の意図や育ちなどをその都度全職員に伝えられる工夫が必要である。 ○接続期カリキュラムを全年齢に周知し発達の連鎖を意識できるとよい。 ☆よいこと、気を付けていきたいことなど集団の中での姿が伝わっている。
体　実 制　施 全　運 般　営	危機 管理	職員や子供たちの安全対応力を高める	2.9	3.8	○園内研修、職員会で安全に関するマニュアルの確認ができ、意識をすることができた。 ○非常ベルは非常時であることを園児が訓練を通して認識できるようになり、よく話を聞いて避難することができるようになった。 ○ヒヤリハット、けがの報告を周知することで安全策について一緒に考えることができた。一緒に考え対策をしていくことができた。 ○訓練後に職員間で気づきや反省について話し合うことは、安全対応力の向上に有効であった。職員間で声を掛け合い協力できる体制づくりが課題である。 ☆外部講師からの学び、とてもよかった。不審者情報の増加や、大きな災害も懸念されるためいろいろな想定で訓練をしていく必要があると思う。

【次年度に向けて】

- ・基本的生活習慣を身に付け規則正しい生活を送る中で、心身共に丈夫で健康な子を育成する。
- ・職員間の連携を図りながら話し合ったり、遊びの環境、援助の在り方等を学びあったりし、資質向上を目指す。
- ・子ども一人一人に寄り添う保育をする中で、興味関心、得意不得意を知り、発達段階に合わせたかかわりや環境を考慮する。
- ・保育活動やその意図、子どもの発達、子どもの自尊心の向上ができるような保護者を巻き込んだ活動や、年齢に応じて動画を活用し保育参観や参加の機会を増やす。